



SALVATIONIST

とぎのこえ

2024年標語「世代から世代へ」(詩編145編4、5節)



二〇二四年九月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

初秋号

広報版
2024

September-October
No.2876

2024年 救世軍標語

「世代から世代へ」

「人々が、代々に御業をほめたたえ
 力強い御業を告げ知らせますように。
 あなたの輝き、栄光と威光
 驚くべき御業の数々をわたしは歌います。」

詩編 145 編 4、5 節

と きの こ え SALVATIONIST

初秋号 広報版
 2024 September – October
 NO.2876

もくじ

- メッセージ
 黙れ、静まれ 少佐 田口 哲也 ……3
- 〔連載〕聖潔の流れに立つ 第34回
 ジョン・ウェスレーの聖潔
 一心うち燃えて— 少佐 丸畑 幸夫 ……4
- 集会報告
 創立159周年記念コンサート
 救世軍社会鍋俳句コンテスト受賞者表彰 ……5
 書記長官による北海道連隊キャンペーン
- 女性部ラリー
 関東東北連隊、北海道連隊 ……6
- 集会報告
 人事・教育部長による西日本連隊京阪神
 地区キャンペーン
- 女性部ラリー 西日本連隊 ……7
- 各地のニュース !!
 医療部、社会福祉部・医療部
 求人情報 ……8
 静清小隊、前橋小隊、杉並小隊、江東小
 隊 ……9
 大森小隊、月島小隊、名古屋小隊、東京
 東海道連隊 ……10
- YP (青少年部)・ファミリーニュース
 東京東海道連隊、名古屋小隊 ……11
 天満小隊、横浜小隊 ……12
- 各地のニュース !!
 任官五年以内の士官講習会 ……12
- 〈連載・第28回〉
 神の呼びかけ～神の民となるために～
 (11) 聖潔への呼びかけ ……13
- 救世軍見解表明
 社会道德に対する救世軍の立場
 第13回「ギャンブル」(2)
 第14回「障がいのある人々」(1) ……14
- 召天記事、救世軍公報 ……15
- 世界の救世軍 ……16



人身取引被害者のための世界祈祷日 9月22日(日)

9月15日(日)～22日(日)、一週間の祈りのキャン
 ペーンにどうぞご参加ください！

<https://signup.24-7prayer.com/signup/24ed0f/>
 から祈る時間枠の登録ができます。

※登録方法等、お問い合わせは人身取引対策室メールまで
jpn.mshtr@jpn.salvationarmy.org



@SArmYJP



SArmY_JP



救世軍
 The Salvation Army

きりとり

- 『と きの こ え』購読を申し込みます。
 (1年分1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

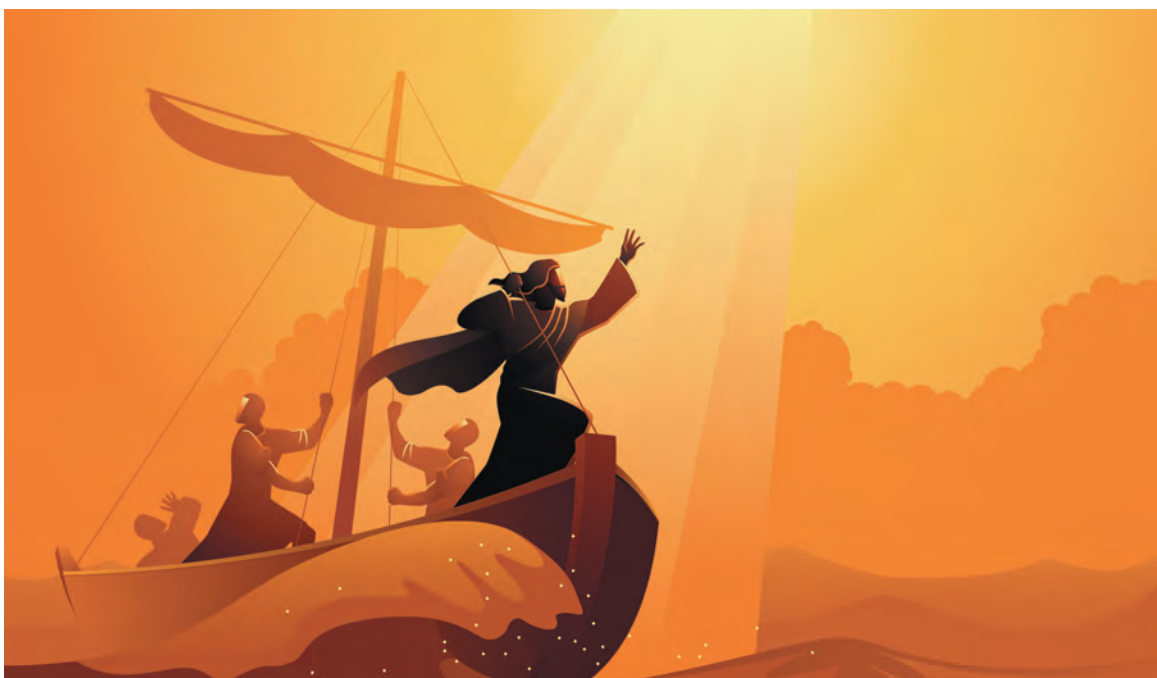
ご住所 _____

表紙の写真：東京東海道連隊キッ
 ズキャンプ2024 オリエンテー
 ションで、一人ひとりを歓迎
 (記事11ページ)

メッセージ

黙れ、
静まれ

少佐 田口 哲也



そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、イエスは艫ともの方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。イエスは起き上がった。風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪なぎになった。イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。(マルコ4:36~41)

弟子たちにとって、この突風はイエス様が助けなければ、自分たちの命を奪うものに映ったのでした。そこで、イエス様は弟子たちを正しく導き、よく支えることのできるお方として、行動をもつて弟子たちを助けられました。イエス様はこの風を叱り、湖に「黙れ。静まれ」と言われたのでした。

弟子たちにとって、この突風はイエス様が助けなければ、自分たちの命を奪うものに映った言葉

第二は、弟子たちがイエス様のお叱りになった言葉を聞くことによつて、それを、後に彼らが記録すること

第三は、風、湖に向かつてお叱りになつていふ福音書では記録していませんが、実はイエス様の言葉は、弟子たちに向かつて発せられたもので、弟子たちの罪を叱っておられるのではないのでしょうか。弟子たちは激しい突風の中で、主イエス様に文句を言うように、自分たちが助かりたいと一方的な発言をしています。自分中心の考えが不安や恐怖を生み、罪をもたらすのです。そのような不安と恐怖の源を断ち切るために、イエス様は言われたのです。

イエス様は私たちに風のような平安な歩みを与えてくださるために、私たちの不安や恐怖をもたらす罪を背負うために、自ら十字架にかかられました。私たちがイエス様の十字架を信じることで、罪が赦ゆるされ、心の平安が与えられるのであります。それが私たちがイエス様と共なる神の国への歩みとなるのではないのでしょうか。

私たちも、それぞれの人生の旅路をイエス様と共に進んでいるでしょう。しかし、ふとしたことで、舵取りが効かなくなつて、不安に襲われた時に、イエス様がどんなお方であつたかを忘れることはないでしょうか。私たちは自分の思うようにいかない時、その原因が何であれ、つい文句を言つてしまうものですが、イエス様は私たちがいかなる時でも見守つてくださり、罪をもたらす私たちの弱い心に「黙れ、静まれ」と言つてくださいます。どのような時にもイエス様を信頼する信仰をもちたいものであります。

(前橋小隊士官)



救世軍日本開戦
129周年記念日
9月22日(日)

連載 聖潔の流れに立つ 第三十四回

ジョン・ウエスレーの聖潔
— 心うち燃えて —

少佐 丸畑 幸夫

（承前）ウエスレーの場合は、もつと個人の靈性の十全だけでなく、実際のな活動を生む外面性を含んでいて、現実の生活にこの人文主義が献身的な行動として顯れることを切望している。これが多くの人々にとって美しい光となり、ウエスレーにとって社会的諸活動の源泉となった。

このヒューマニズムが、英国に革命をもたらす社会性として、彼の聖潔思想の中に含まれていたのである。ここに地上的な恵みと靈的恵みが統一され共有されている。ヒューマニズムが良い意味で生かされている。現世における人間性を極端に低くしないが、嫌悪も共有していた。人文主義の勃興は、良い意味では福音である神の言葉と人間の経験や期待を上品に結びつけている。しかし天国では人文主義のすべてが存在することのできない部分がある。キリスト教の極端なヘレニズム化は、自然人重視の異端の道へと混淆する危険を有している。

アウグステイヌスは、この危険を知るようになった。この新プラトンの教説は、聖書理解を助ける限りにおいては役立つが、必要以上に人間世界を注視してはならないと彼は言っている。

A. チャールズ・ウエスレーの賛美歌

ジョン・ウエスレーは弟のチャールズ・ウエスレー

と心を一つにして働きを進めた。チャールズは生涯に六千五百の賛美歌をつくった、と言われている。彼の賛美歌は、ジョン・ウエスレーにとって大切な伝道要素であった。

キリスト教の歴史の中で賛美は極めて実際のな信仰行為である。かつて天の大軍勢がキリスト降誕を賛美し、マリアはマグニフィカトで、後にはグレゴリオ聖歌、クレルヴォーのベルナルド、アッシジのフランチェスコ、バッハ、ヘンデル等、「神様ありがとう」の言葉は尽きない。信仰行為で一番美しいのは「賛美」である。アウグステイヌスも崇高な詩を残している。

「神の面影の永遠の静観……それは詩のごとき世紀の流れの美しさをそなえた調和を伴っている」と。

ウエスレーの宗教運動はその精神と感情の表現である賛美歌と共に進んだ。メソジスト運動の基調となる福音的で恩寵に満ちた自由と歓喜の表現は、チャールズ・ウエスレーの賛美によるところが大きい。彼の賛美歌は叙情的なものが多い。

ウエスレーは、「神を見上げ、神を喜ばせる敬虔をもつて靈的に歌え」と言っている。静かに恩寵を歌う詩情と、神を喜び、寿ぎ、恵みを称えることは、神の最も喜ばれるところであろう。チャールズは言う。

「ヘンデルが小鳥の声のように弦を弾くと、天使は調子を合わせて翼を羽ばたかせる」と。つまり、神と人との交わりの中には、多様な豊かさが宿っていることをチャールズは体験していたのである。

一七八八年三月二十九日、チャールズがつくった賛美歌「天の御国に勝ち歌うたい、主の誉れを得た友と、我也歌わんいざもるともに」を会衆が歌い続ける中で、「宗教詩人」チャールズは天にある聖徒の群れに帰っていった。彼の賛美歌は、ジョン・ウエスレーの教育計画の一部であったと言われている。

B. 馬上の巡回伝道者

ウエスレーは巡回伝道の際に、書庫と呼ばれる独特のライブラリーを携え、馬上で歴史、伝記、哲学、詩

歌などを読んでいた。カルヴァンのように机上で思考した理論ではなく、大衆を愛する思いに満たされ、祈りつつ馬上で学んだ。

晩年には馬の背よりも馬車を使用した。ある時は郵便馬車を、ある時は荷馬車を利用した。愛に燃える巡回伝道の行程は、世界史上他に例を見ない。

彼は英国第一の旅行家であると自認していた。毎年、英国を十回以上も視察すると言っていた。その行程は約二十五万マイル、一生の間の説教回数は、約四万回だったとのことである。時代は変わり、ウィリアム・ブースは自らのキャンペーンに自動車を利用した。これも画期的なことであった。

ウエスレーが伝道した所には、信仰復興が起こった。彼は懐かしいエプワースに立ち寄り、父の墳墓の傍らに立ち、静かに神の恩寵を語った時、聴く者、語る者、共に靈感に満たされ、深い共鳴を引き起こした。その特色は、その伝道地に必ず彼の後継者をつくって、組織的に伝道の効果を継続させていったことである。

ウエスレーは八十歳を超えた晩年まで、その戦闘的な習慣を続けたが、生涯、団体の首領になる野心はなく、きれいな夢を見ることが、ひたすら英国の信仰復興を願う熱意に燃やされていた。

C. 貧民階級に集中した社会的活動

一七四〇年一月、ブリストルにおいて極寒降雪のために失業する者が多く、教区の補助も十分でなく、人々は極度の困窮に苦しんでいた。

ウエスレーは教会員と共に一週間に三回、金品を集め、一日に百人から百五十人を助けることができた。それにしても、運営の資金源はどこから来たのであろうか。それは予期してはいないのに、見知らぬ人から必要なものが供給されたのは不思議なことであった。

ロンドンでは貧民を収容して、小規模ながら紡績事業に着手し、失業した女性のためには編み物などを指導し、その力量に関係なく賃金を払い、その生活を支えた。

（続く）

集会報告

創立 159 周年記念コンサート

6月9日(日)午後3時 山室軍平記念ホール

各小隊での聖別会を終えた戦友、士官が続々と集まり、開会を待った。定刻、司会の西新井小隊士官三澤良子少佐の開会の言葉に続き、ジャパン・スタッフ・バンド (JSB) が「輝く日を仰ぐとき」を演奏。華やかなブラスの響きに会場の雰囲気は活気づく。挨拶に立った書記長官西村保大佐補は、ウィリアム・ブースが粗末なテントで力に満ちた説教をした日、7月2日が創立記念日となったことを述べ、「この集会で、創立時から続く救世軍の使命とその働きを支える人々に感謝し、神に感謝と祈りと賛美を献げたい」と語った。続いて会衆賛美「主なる神にさかえあれ」が高らかに歌われた。

救世軍の紹介と活動報告が、映像とともに社会福祉部長石川一由紀少佐によってなされた。1865年以來、ウィリアムと妻カサリン・ブースのビジョンに従って救世軍が今日も活動を推し進めていることが述べられた。その後、東京地区小隊の世代を超えた9人の有志からなるタンバリン隊が「Shine Jesus Shine」の演奏に合せて切れの良い操練を披露。続いて、JSBが「わがためのちを主はたまえり」を、マリアッチ風に華麗に演奏した。

第8回救世軍社会鍋俳句コンテストの受賞作品発表と表彰式では、2019年から選者となっている唐澤南海子氏(現代俳句協会会員、「岳」無鑑査同人、日本基督教団信濃町教会員)が登壇し、「9歳から95歳までの方から240句が寄せられ、みずみずしい感性と豊かな言葉で紡がれた作品に感動した。次回にも期待する」と今回の総評を語った。スクリーンの映像で受賞作とそれぞれの選評が発表され、その中から、会場に来られた優秀賞の木浦禮子さん(代理)と、ほのぼのの賞の受賞者3人に賞状とエコバッグが贈られ、会衆は惜しめない拍手を送った。

ジャパン・スタッフ・ソングスターズが「心やさしければ」



俳句コンテスト選者の唐澤先生と受賞者の皆さん

吉田真中将

を原曲とは別バージョンの曲で豊かに歌いあげ、吉田真中将はこの歌のコーラスの歌詞「まして愛の神は……」をタイトルに、ローマ5:8を引いて、メッセージした。「この歌は『ホセア』というミュージカル(1965年初演)の中の1曲。このミュージカルは、小隊のユースクラブのリーダーと妻との関係、聖書のホセアの物語、背信のイスラエルに対する神の物語が三つ並行して展開していく。夫を捨て別の男性と出奔した妻を、神に促されて赦し、受け入れたホセアとユースクラブのリーダー。このことを通して、神は罪を赦し、愛し、無条件に受け入れてくださることが表されている。罪とは、この無条件の赦しと愛の恵みを認識しない・知らないことである。神の無条件の愛に気づいた時、神の許に帰る者を神は受け入れてくださる。愛される側に理由はない。愛する側に理由があるのである。」

JSBが「みもとにひれふし」を静かに、そして表現力豊かに演奏し、集会を閉じた。(会衆110人)

救世軍社会鍋俳句コンテスト受賞者表彰

第8回救世軍社会鍋俳句コンテストの受賞者(『ときのかえ』盛夏号参照)の方々に、各地で賞状が届けられました。

●ケアハウスいづみ

7月5日(金)におこなわれた恵泉ホーム・ケアハウスいづみの創立記念バラ祭で、優秀賞を受賞された木浦禮子さんに、書記長官から賞状が手渡されました。



●八幡小隊

7月6日(土)に、佳作に入賞された佐藤節美さんが小隊に来てくださいました。



佐藤さんは、先に、親しいご友人が救世軍の俳句コンテストで受賞されたことを知り、今回、東日本大震災で被災した福島県の友人

のことを思い応募されたとのことでした。「自分は被災者ではないけれど、被災者への支援に感謝して書いた」とおっしゃっていました。賞状などをお渡しするとともに、救世軍のことや、東日本大震災や能登半島地震の被災地支援についてもお話しすることができました。

●札幌小隊

石坂臣司少佐、奈緒美少佐が7月18日(木)、佳作入賞者の佐藤公さんをお訪ねし、賞状などをお渡ししました。「励みになります」と喜んでくださいました。

●名古屋小隊

7月28日(日)午後開催したミニ・コンサートの中で、社会鍋俳句コンテストの授賞式をおこないました。

佳作に入賞された石原弘樹さんに、東京東海道連隊長中島美和大尉より賞状と記念品が渡されました。



集会報告

書記長官西村保大佐補及び軍国女性部書記西村和江大佐補による 北海道連隊キャンペーン 6月16日(日)～19日(水)

キャンペーンは札幌から始まり、16日(日)札幌小隊の聖別会には保育園の職員の方も参加しました。書記長官西村保大佐補がマタイによる福音書から「天には大きな報いがある」と題してメッセージしました。(会衆35人)



札幌小隊



保育園で子どもたちに語る書記長官

17日(月)午前、書記長官は札幌の三つの保育園(桑園保育所、しせいかん保育園、菊水上町保育園)



帯広ファミリーソング 和江大佐補による読み聞かせ

を連隊長石坂臣司少佐と一緒に巡回し、集会を導きました。午後から帯広に車で移動。軍国女性部書記西村和江大佐補は東京から帯広に直行しました。帯広小隊を会場に連隊士官会をおこない、書記長官がヨハネによる福音書から「あなたがたもするように」とメッセージしました。士官会后、書記長官は帰京しました。

18日(火)は帯広小隊で「ファミリーソング」集会。昼食と交流の時をもちました。眞鍋和枝少佐がベビーマッサージを、西村和江大佐補が絵本の読み聞かせをしました。初めて参加される親子もありました。(23人)



遠軽小隊

集会後、遠軽へ移動。

19日(水)、遠軽小隊にて連隊女性部ラリーとして「女性の集い～心躍る人生」がおこなわれました。礼拝では西村和江大佐補がイザヤ書から「あなたが大切だから」とメッセージし、続いて、「もしバナゲーム」(人生の最期を見据え、「もしも」の時のための話し合いをするきっかけとなるようにつくられたカードゲーム。ACP<アドバンス・ケア・プランニング>=「人生会議」の考えに基づく)を用いてグループでの分かち合いをしました。昼食と交流の時を楽しみ、恵みの一日となりました。(13人)

女性部ラリー 関東東北連隊

5月29日(水)、連隊に連なる各小隊をリモートでつなぎ、各小隊が役割を担い、開催しました。出陣者の軍国女性部書記補佐石川芳子少佐は新潟小隊から参加しました。

奏楽を小金澤規子日曜学校教師(前橋)、司会を前橋小隊士官田口哲也少佐、祈祷を仙台小隊士官松末泰志大尉がしました。証言は、和田由美兵士(新潟)が新潟小隊の「フードサービスの働き」について、佐野小隊士官眞鍋恵中尉が佐野小隊の「あさぬまサロンの働き」について語りました。聖書朗読を桐生小隊士官補佐成演宇軍国特務曹長が



新潟小隊に集った方々

し、石川芳子少佐は「代々に主の御業をほめたたえよう」(詩編145:4、5)と題してメッセージをしました。

対面ではありませんでしたが、それぞれの小隊から顔を合わせ、共に同じ時を過ごすことができ、恵みの時となりました。(参加者34人)



北海道連隊

6月19日(水)、書記長官と軍国女性部書記によるキャンペーンの一環として「女性の集い～心躍る人生」を遠軽小隊でおこないました。(詳細、写真は上記)

集会報告

人事・教育部長添田美和少佐による 西日本連隊京阪神地区キャンペーン

6月2日(日)、
6月7日(金)～9日(日)

今回のキャンペーンは、6月2日の日曜日と、7～9日にかけておこなわれました。

6月2日(日) 神戸小隊。賛美と祈りの時間に続いて人事・教育部長添田美和少佐は聖別会を指揮。野本亮一ワーシップ軍曹が証しし、添田少佐は「良くなりたか」(ヨハネ5:1～11)と題してメッセージを語りました。(会衆9人、恵の座4人)

午後は泉尾小隊に移動し、神戸小隊、天満小隊からも参加者が加わり、特別集会及び京阪神地区女性部ラリーとして集会をしました。集会前に会館前での広告のバンド演奏とタンバリン操練には、通行される方も耳を傾けていました。一部を礼拝として守り、二部は証言会として、茶菓をいただきながら、各小隊で選んだ賛美と共に、鈴木和美家庭団員(泉尾)、野本よし江家庭団員(神戸)、間島優子家庭団員(天満)が証しました。また南セフ子家庭団員(泉尾)の手芸作品の展示販売もありました。(25人)

6月7日(金) 希望館。職員会議で添田少佐はショートメッセージをしました。館内の見学や職員との交流の時間をもちました。夕方からは天満小隊のドラマオグレン宅を訪問しました。

6月8日(土) 天満小隊。賛美会を1階のホールでおこないました。本営音楽部の江原美果子職員も随行し、キーボード奏楽をしました。カフェチャーチという形式を取り、外部からの出席者や久しぶりの出席者もあ



神戸小隊



天満小隊



京都小隊

り、多くの賛美を共に歌いました。歌いながらゲームを楽しみ、最後に添田少佐は「必要なものは与えられる」(ルカ11:1～13)とショートメッセージをしました。(29人)

6月9日(日) 京都小隊。聖別会で、西日本連隊長本村大輔大尉が献身について勧話をし、添田少佐は「与えられた賜物を生かす」(コリントー 12:4～14、27～31)と題してメッセージしました。愛餐会(あいさん)に続いて日本での留学を終えてノルウェーに帰国するレビ兵士が証しし、最近就職したベン兵士と併せて二人の門出をお祝いして、ゲームと交流の時間をもちました。(会衆14人)



女性部ラリー 西日本連隊

●京阪神地区

2024年、西日本連隊では、なるべく集まりやすい地域で、いくつかに分かれて女性部ラリーを開催することになりました。

京阪神地区では、人事・教育部長キャンペーンに合わせて6月2日(日)午後には泉尾小隊を会場におこないました。(詳細は上記参照)

●広島・呉地区

6月2日(日)に呉小隊を会場におこないました。10時30分より合同聖別会が、野間頼子歓迎軍曹(呉)の奏楽、吉田有書記(呉)の司会で始められました。開会賛美の後、筒井恵子家庭団書記(広島)が開会祈禱を献げ、広島小隊士官藤井千明大佐補が開会の挨拶。テーマソングを歌い自由証言の時には、恵みの証言を次々と分かち合いました。献金を献げた後に佐々田清子家庭団会計(呉)が感謝祈禱、最後にテサロニケー5:23、24より「全く聖なる者として」と題して藤井千明大佐補が説教。終



泉尾小隊で京阪神地区女性部ラリー



呉小隊で

禱を呉小隊士官藤井健次大佐補、頌栄に続き千明大佐補が祝禱をしました。

午後には歓迎及び誕生昼食会の時をもちました。また、筒井家庭団書記による「かんたん手芸」でブローチづくりを楽しみ、その後、入船山記念館を見学しました。(参加者15人)

NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

医療部

●医療部講演会

6月2日(日)、清瀬小隊を会場に第8回医療部講演会が開催されました。講師として医学博士の樋野興夫氏を迎え、「病むこと 老いること 対話と寄り添い」というテーマのもと、がん哲学外来の紹介に始まり、がんや生き方などについてご講演いただきました。講演後は参加者が5～7人の小グループに分かれて対話の時をもち、それぞれの思いや感じられたことを分かち合い、最後には質疑応答がなされました。

また、会の中では今年の2月から新しく清瀬病



講演する樋野氏

院で始まった介護医療院と、7月から隔月1回開催予定の「暮らしの保健室 Cafe」(※)の紹介、清瀬病院で現在取り組んでいる「もしバナゲーム」と「もしバナ体験会」についての案内もなされました。(参加者42人、スタッフ19人、合計61人)

※「暮らしの保健室 Cafe」…地域の方々の居場所となる場所。健康や介護、グリーンケアなど、暮らしの中で気になる様々なことについて分かち合いができる。チャプレンが常駐。医療職員への相談も可能。



社会福祉部・医療部

●リーダー研修会

6月4日(火)～5日(水)、マホロバマインズ三浦(三浦海岸)にて、「自分たちに期待されている働き」と題して開催しました。4日(火)、開会集会を書記長官西村保大佐補が指揮し、「私の僕を癒してください」(ルカ7:1～10)と題してメッセージをしました。続いて、吉田真中将による「救世軍医療事業・社会福祉事業の理念について」の講演、その後、「理念を実践できていますか?」のテーマでグループワークをおこない、リーダー層としての思いや実践について、分かち合いの時をもちました。

5日(水)は清瀬小隊士官補佐齋藤丈夫大尉によるバイブル・リーディングで始まり、前日の各グループ発表があり、参加者全員の日々の実践が、理念の実行につながっているとの認識を深める機会となりました。閉会集会を軍国女性部書記・医療部長西村和江大佐補が指揮し、「えらくなりたい人は」(マルコ10:43,44)と題してメッセージをしました。(参加者11人、スタッフ9人、計20人)

●救世軍全国中堅職員研修会

7月9日(火)～11日(木)、マホロバマインズ三浦にて開催しました。テーマを「誇りをもって働く」とし、全国から参加者が集い、司令官スティーブン・モーリス大佐、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐、吉田真中将をゲストに迎えました。

9日(火)、司令官は、開会礼拝を導き、「バーンアウトを防ぐために」と題してメッセージをし、救世軍組織の学び、参加者の自己紹介、施設紹介の時をもちました。

10日(水)は「人生の目的」と題して司令官がバイブルスタディを導きました。続いて、吉田中将が理念の講演をし、司会の村上真施設長(恵泉ホーム)が質疑応答を導きました。その後、グループワークでさらに理解を深めました。

11日(木)、グループワーク発表の時間をもち、吉田中将のコメントがあり、分かち合いの時をもちました。閉会集会では軍国女性部会長がメッセージをしました。この研修会は実行委員会が準備を担当し、11月のフォローアップ研修で再会することを確認して散会しました。(参加者13人、実行委員2人、ゲスト・講師・研修委員12人、計27人)

求人情報



救世軍では、社会福祉法人や宗教法人の施設を通じて、幅広い事業を1都1道1府2県で展開しています。求人情報は各施設が窓口となり、原則として他地域への異動はありません。詳細な募集条件は、救世軍の公式ホームページ(www.salvationarmy.or.jp)の「求人情報」や各施設の公式サイトで確認できます。問い合わせ先に連絡することで、見学や職場体験の希望も受け付けています。一部施設では半日職場体験も可能です。

救世軍での仕事は、地域社会に貢献しながら多様な経験を積むことができる機会です。興味のある方はぜひご応募ください。

募集職種は以下のとおりです：

- － 児童養護施設 (5 施設)：児童指導員、生活支援スタッフ、相談員、公認心理師、臨床心理士など
- － 女性自立支援施設 (2 施設)：支援員
- － 救護施設 (1 施設)：支援員、相談員
- － 特別養護老人ホーム (2 施設)、軽費老人ホーム (1 施設)、介護老人保健施設 (1 施設)、訪問介護ステーション (1 施設)：看護師、准看護師、介護職員、ホームヘルパー、社会福祉士、介護支援専門員
- － 保育所・認定こども園 (5 施設)：保育士、幼稚園教諭
- － 病院 (2 施設)、介護医療院 (1 施設)：看護師、介護福祉士、介護職員 (看護助手)

静清小隊 ●召天者合同記念聖別会、納骨式

6月9日(日)、今年も会場を借り、東京東海道連隊長中島美和大尉、連隊女性部書記鈴木真理子大尉を迎えて、召天者合同記念聖別会を開きました。

例年のように、旧沼津・静岡・清水小隊からの戦友、ご家族、ご遺族も集いました。先に天に帰られた方々の信



仰を覚えるとともに、自身の天国への希望を新たにする時でした。集われた方々の簡単な紹介もあり、改めて、今の静清小隊が3つの小隊によって「ある」ことに感謝しました。(会衆31人、うち子ども2人)

同日、午後からは故城之内正浩兵士・士華子兵士夫妻の納骨式がおこなわれました。遺骨はご家族の手によって、小隊納骨堂に並んで収められました。(参列者9人)

前橋小隊

6月9日(日)の聖別会は、元前橋小隊長の惣賀靖雄少佐を迎えておこないました。惣賀少佐はローマ書8章から「とりなしの助け主」と題してメッセージをしました。



戦友は18年ぶりの再会を喜び、聖別会後の愛餐会でも祝福された交流の時をもちました。感謝な一日でした。

江東小隊

●兵士入隊式



7月7日(日)、小隊士官メリッサ・テンプルマン-トゥエルズ少佐の司式で、小林正和さんの兵士入隊式が執りおこなわれました。小林兵士はアメリカのローズボウルパレードで初めて救世軍を知り、日本で本営前のゴスペルハウスを訪ねて、担当していた畠山真紀子さんに出会い、ニューホープ麻布でのバイブルスタディに参加するようになりました。やがて江東小隊に出席するようになり、この日を迎えました。小林兵士は、精一杯神様に仕えていきたいと証言をしました。

杉並小隊 ●兵士入隊式

7月7日(日)の杉並小隊開設82周年記念聖別会は、伝道事業部長石川和男少佐と副伝道事業部長石川節子少佐の出陣でした。石川和男少佐はマルコ4:10~20より「実を結ぶ者」と題して説教をしました。席上、宇賀神共基ジュニア・ソルジャー、西村光輝ジュニア・ソルジャー、西村優基ジュニア・ソルジャーの兵士入隊式が石川和男少佐司式で執りおこなわれました。それぞれが証言をし、神様の導きと、兵士になる思いを分かち合いました。



●バイリンガルの小隊軍旗献納

同日、士官学校長ダニエル・テンプルマン-トゥエルズ少佐は新しい江東小隊軍旗を献納しました。この軍旗は日本語と英語で小隊名が入っており、江東小隊はもちろん、日本軍国の歴史上、初めてのバイリンガルの小隊軍旗です。小隊に集う様々な国籍の方々を象徴する軍旗であり、小林兵士はこの軍旗のもとでの最初の兵士となりました。



NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

大森小隊

●野外デー

7月2日(火)～3日(水)、戦友勤務先のホテルに泊し、野外デーをおこないました。豊かな自然と温泉、交流で、霊肉共に恵まれました。



●第59回召天者合同記念聖別会

7月7日(日)午前10時30分からおこないました。主を礼拝し、105人の信仰の先達方、主にある兄弟姉妹を偲びました。出陣者の吉田真中将は、詩編139:1～10から、「知られていることの安心」と題してメッセージを取り次ぎました。神様の記憶の中にはすべての人が入っています。神様に知られていることと、信頼することの大切さを知り、祝福をいただきました。(会衆20人)



月島小隊

●同友者宣言

7月14日(日)の聖別会席上、鈴木彰信さんと珠枝さん夫妻の同友者宣言がなされました。それぞれが証言をし、これまで多くの方に祈られて導かれてきたことの感謝、世代から世代へと人とのつながり、神様とのつながりが受け継がれていることの恵みを分かち合いました。



名古屋小隊

●兵士入隊式

7月28日(日)、東京東海道連隊長中島美和大尉、連隊女性部書記鈴木真理子大尉出陣の聖別会席上で、奥山一郎准兵士と奥山貴子准兵士の兵士入隊式を連隊長の司式でおこないました。



東京東海道連隊

●ワーシップコンサート

6月28日(金)午後7時より、江東小隊を会場に、アメリカ・ダラスのクロスチャーチでミュージックディレクターとして奉仕されている中山告さん(この日は一時帰国中)をお招きして開催されました。中山さんのピアノ賛美に、友人であるドラマー松浦よしやさんも加わってくださり、「起きよ光を放て」や「どんな時でも」など約10曲を会衆一同と共に歌い、賛美を献げました。

中山さんは、「クリスチャンホームで育ち、当たり前のように礼拝していたが、大きな感動はなく過ぎていた。ある集会で、主を祈り求める時間をもった。最初はどのようにしてよいのかわからなかったが、ただ主を呼び求める祈りを献げた時、主に触れられる経験をした。そして喜びをもって、その後、イエス様のすばらしさを伝え



たと証しされました。共に賛美を献げ、証言を聞き、ただ主を求めて礼拝する恵みのひと時でした。強い雨が降る夜でしたが、集った皆さんに笑顔があふれ、神様が一人ひとりに触れてくださったことを感じました。

また、救世軍創立記念日を前にして、救世軍は聖霊の導きに従い始まったムーブメントであることを改めて教えられ、神の国と神の義を第一とした共同体として新しくされることを期待するひと時でした。(参加者33人)

YP (青少年部)・ファミリーニュース

東京東海道連隊

●キッズキャンプ 2024

7月23日(火)～25日(木)、奥多摩バイブルシャレーで「わたしの神さま」(イザヤ43:4)のテーマでおこなわれました。子どもたちと保護者、高校生のボランティアワーカー、スタッフ合わせて51人が参加しました。初めて救世軍の集まりに参加する方々もおられ、大きな喜びでした。

1日目のオリエンテーションでは、連隊長中島美和大尉のリードで、参加者一人ひとり名前を呼んで歓迎し、これから始まるキャンプに期待する時となりました。その後、早速プールに入り、元気いっぱいに楽しみました。夕食後はゲーム大会で交流を深めました。

2日目はデボーションから始まりました。『聴くドラマ聖書』からヨハネによる福音書1章の御言葉(みことば)を聞き、小グループに分かれて、「ぶっとびバイブル」のテキストを使って感じたことを話し合いました。朝食後のバイブルスタディでは、名古屋小隊士官加藤直子少佐から、「わたしはよいひつじかい」のテーマで、一人ひとりを愛し導いてくださるイエス様のことを聞きました。また、宇賀神共基兵士(杉並、ボランティアワーカー)が、イエス様が岩(いわ)となって守ってくださっているという体験を証しました。

午後は休憩をとりながら、プールや屋内での自由時間、水鉄砲合戦、すいか割り、バーベキューの夕食など、たくさん遊んで楽しい時間をもちました。夜のキャンプファイヤーでもゲームや賛美をし、最後に、横浜小隊士官鈴木智博大尉から、イエス様に出会ったザアカイの姿を通して、神様は罪を赦し、新しい心を与えいつも一緒にいてくださる、とメッセージを聞き、お祈りしました。



皆、順番にすいか割りにチャレンジしました



3日目は朝食後にデボーションの時をもちました。その後、閉会集会は、「なんでもバスケット キッズキャンプバージョン」のゲームで始まり、楽しかったキャンプを振り返りながら盛り上がりました。みんなで大きな声で歌って賛美をし、山中心美さん(渋谷、ボランティアワーカー)から、イエス様を信じて心と行動が変えられた証言を聞きました。連隊青少年部書記朝澤義人大尉がメッセージをし、一人ひとりが神様に愛されている大切な存在であること、イエス様が十字架にかかり血を流されたことを通して、すべての人の罪が赦されたこと、この神様の赦しと救いを「わたし」のこととして受け取り、神様を信じて期待して従っていく時、神様は必ず恵み祝福してくださること、みんなの毎日と将来を神様が守り導いてくださることが語られました。続いて、お祈りの時をもち、イエス様を信じる決心をした子もありました。

ゲリラ豪雨も心配されましたが、雨雲もそれていき、事故やケガからも守られ、神様の祝福と喜びに満ちた二泊三日でした。来年の再会を楽しみに、散会しました。

名古屋小隊 ●ジュニア・ソルジャー入隊式

7月28日(日)東京東海道連隊長中島美和大尉と連隊女性部書記鈴木真理子大尉出陣の聖別会席上で、高山乃愛さんのジュニア・ソルジャー入隊式をおこないました。



〈お知らせ〉
『キッズ・ゴスペル』は
オンラインで!



2024年4月号より、『とよきのこえ』福音版(1日号)4ページに、『キッズ・ゴスペル』用QRコードが掲載されています。QRコードをスマホのカメラで読み取って、紙面を閲覧することができます。紙面メッセージと連動した聖書アニメも見ることができます。どうぞご活用ください!

※小隊、施設には印刷用データを青少年部から配布しています。

YP (青少年部)・ファミリーニュース

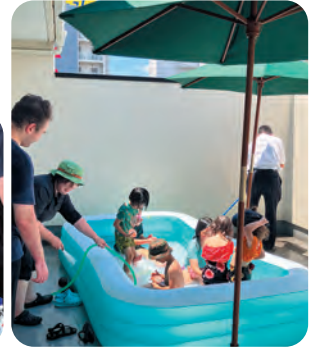
天満小隊 ●サマースクール

7月28日(日)の午後、YPサマースクールをおこないました。まず昼食の準備を皆でしました。5階のエントランス部分にパラソルを立て、流しそうめんの樋を組み合わせてスロープ状にし、テーブル等も準備。その間に子どもたちはおにぎりをつくりました。流しそうめんでは、色々な具材を汁に入れて、そうめんをキャッチするのに必死になりながら、みんなでお腹いっぱい食べました。子どもたちは、大人のためにそうめんを流すのも楽しんでいました。

水遊びをし、子どもも大人もスイカ割りを楽しんで、デザートにスイカをおいしく食べました。

その後、3階の涼しい第二ホールへ移動し、賛美や、天

地創造の紙芝居から、神様からすばらしい存在として造られた私たちをもう一度考える時をもちました。アイリーンさんがアクションソングやゲームを導き、楽しい時でした。その後も、おやつにはかき氷を、氷を削って色々なシロップをかけ、思い思いに食べて過ごしました。夏の楽しいイベントでした。



横浜小隊 ●こども広場サマースペシャル

7月31日(水)10時30分～正午まで、開催しました。横浜小隊では、地域の子どもたちが自由に出入りし、遊んだり、休んだりする場所をもてるようにと、毎月2回水曜日の午後2時間、小隊を開放しています。毎回、数人から10人程度の子どもたちが、小隊に出入りし、1階第二ホールでお絵かき、ジェンガ、オセロ、風船遊びなど、思い思いに遊んでいます。

この夏、特別企画として「こども広場サマースペシャル」をおこないました。3歳から小学2年生の5人の子どもたちが



集い、初めて2階礼拝堂に足を踏み入れた子どもたちは、少し緊張した表情も見られました。御言葉を聞き、賛美を歌い、ゲーム、工作、かき氷を楽しみました。ゲームや工作では、普段見られない子どもたちの姿がありました。子どもたちがとてもいい表情で過ごすひと時でした。地域の子どもたちが、神様を知り、信頼し、真の命を得られますように、小隊の皆さんと共にこれからも祈っていきたく願っています。

NEWS!! NEWS!!

任官五年以内 士官講習会

各地のニュース!! 7月2日(火)～4日(木)、士官学校でおこなわれ、友安渚中尉、眞鍋嗣道中尉、眞鍋恵中尉、吉田慎也中尉の4人が参加しました。

2日(火)開会集会は司令官スティーブン・モーリス大佐、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が指揮。司令官は「清き水のありがたさ」(エレミヤ17:5～8)と題して御言葉を取り次ぎました。続く証言会、夕べの祈りの時は、書記長官西村保大佐補、軍国女性部書記西村和江大佐補も参加し、恵みやチャレンジを分かち合い、共に賛美し、祈り合う時をもちました。

3日(水)、4日(木)は講演。①「遺贈について」寺澤勇財務管理部長、②「災害救援活動の学び」堀浩明災害対策室長補佐、③「社会鍋募金とその利用」社会福祉部長石川一由紀少佐、④「メディア・コミュニケーシ

ン戦略」コミュニケーション部長山谷真少佐、⑤「聖書学・コリントの信徒への手紙一12章～15章について学ぶ」勝地次郎中将、⑥「教理」吉田司少佐、⑦及び⑧「説教演習(葬儀と結婚式説教)」吉田真中将、⑨「セルフケア」人事・教育部長添田美和少佐が担当しました。

4日(木)閉会集会は書記長官、軍国女性部書記が指揮。書記長官は、「そうすればとれるはずだ」(ヨハネ21:1～14)と題し、御言葉を取り次ぎました。参加者は献身の思いを新たにし、聖霊に満たされて各任地へと遣わされていく時となりました。



〈連載・第28回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(11) 聖潔への呼びかけ

(承前) 救世軍の聖別会は、兵士の日々の生活においてこの教理が生かされるために欠かせないものです。世界各国で日曜日の聖別会は、救世軍人たちを礼拝へ招くものとして位置づけられています。ブレングル中將はさらに踏み込んで述べています。「士官たちが霊的な経験を失ってしまったら、聖別会は力のないものになり、そうなれば小隊の霊的な命は沈み込み、霊的な喪失、病、そして死というおぞましい事実を覆い隠そうとして様々な代用品を取り込むようになるだろう。」

フィル・ニーダム (Phil Needham) は、聖潔が愛を含む神のあらゆる性質に及ぶものだと述べています。「本当の聖別会は、唯一の聖なる方である神に基づくものであり、人々が主に似た者となるよう、そしてこの世できよい民として生きるために招いているのである。」さらにこう述べています。「神のご臨在において、わたしたちは自分が何者であるか、また何のために生きるべきかを見いだすことができます。そこにはごまかしや言い逃れの余地はない。神の聖さは、わたしたちが自分の生活に真摯に向き合うよう求め、改善が必要な部分を教え、神の聖潔の恵みによりそれを実現してくださるのである。」

聖潔の教えで大切なことは、『救世軍士官の軍令及び軍律』(第1巻3編4章参照)にまとめられています。

「聖潔について知的に、同時に簡潔に教えることは士官の責任である。会衆が理解できないような神学用語を用いて混乱させてはならないが、機を捉えて、神の助けにより、人々が神の御心に沿って完全にゆるされた者となり、聖霊に全く満たされるよう導かなければならない。」

聖潔について、その本質や働きについての理解を助けるために、数々の歌がつくられてきました。無数の救世軍人が、歌を通して聖潔の教理を理解してきました。セシル・ウォータース (Cecil Waters) 少佐がロンドンのウイリアム・ブース・カレッジで語った時、次のように論じました。「わたしが考えるには、救世軍人が自分の『救世軍歌集』をもっている割合は、他の宗派の人たちが聖歌集をもっている割合より多いのではないのでしょうか。わたしたちの歌集は各自のデボーションでも大変助けとなり、霊的な成長に実に役立つものです。」

聖潔の歌は、各地の救世軍人の生活で決定的な役割を果たしています。救世軍人の書いた歌も、他のクリスチャンの書いた詩を引用した歌もあります。チャールズ・ウェスレーの歌は、聖潔の本質について明確にそして難しい点を示しています。

「いつくしみふかき 主よ、来たりて
わが胸にみ名を するしたまえ」
(『讚美歌21』 492番5節)

フレデリック・クーツ大將は、聖潔とは「キリストに似た者となること」である、キリストのようになることを求め、キリストにあつて成長し、自分の中にキリストを迎えることである、と説明しました。彼の著書『クリスチャンの経験の本質』で、次のように述べています。

「キリストに似た者になることが聖潔である。キリストが王となる場所に聖潔がある。しかし、聖潔とは、ただ外側の形だけを意識してまねるようなキリストの『まね』とは全く異なるものである。キリスト者の聖潔とは、イエスと共にあつたのと同じ聖霊が、わたしたち自身に宿り、内側から泉のように湧き出るものなのである。……聖潔の恵みは『それだ』と言えるようなものではない。『わかった』とは言えない。なぜなら個人的な経験であり、経験の源は個人的なものだからだ。……聖霊の働きは、イエスのうちに完全に実証されており、外側を似せるのではなく、内なる恵みの働きによってのみ、わたしたちはイエスに似た者となることができる。」

救世軍歌の作者コリン・フェアクロウ (Colin Fairclough) 大佐補は、祈りの希望を表現しています。

栄えのキリスト、平和の君
わたしのうちに、あなたの命を増してください
わたしが生きる時に、あなたが輝きますように
これはあなたのものであり、わたしのものではありません
どうかわたしに宿ってください、皆によくわかるように
主よ、生けるキリストよ、わたしのうちに

度々用いられているレズリー・テイラー・ハント (Leslie Taylor-Hunt) の歌は、救世軍の無私の奉仕の動機となっている祈りについて、明らかにしています。

主のきよけき いのちの
み霊をもて きよめて
わがこころも 思いもみな
主のとりこと なしませ

(『救世軍歌集』199番)

長年にわたり、「全く罪のない」また「キリスト者の完全」という言葉が聖潔の生活の説明として使われてきましたが、必ずしもうまくいかず、時には混乱を生んできました。ジョン・ウェスレーは、骨身を惜しまず、1759年のメソジストの年会で「キリスト者の完全」について定義し、「全き聖別」や「聖潔」と同義としました。その定義は、「心と意思と魂と力のすべてをもって神を愛すること」です。さらに、「このことから、魂の内には間違った感情や愛に反するものは一切ない、思いや言葉、行動のすべてが純粋な愛によって覆われている状態を意味している」と述べました。

『地の器 (Earthen Vessels)』の中で、ミルトン・アグニュー (Milton Agnew) 大佐補は、このことについて次のように要約しています。(続く)

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第13回「ギャンブル」(2)

見解表明の背景と状況

(承前) 問題のあるギャンブラーになると、家族、仕事、社会を省みなくなります。ギャンブルは財政破綻、不正行為、犯罪行為に至る道です。

調査によると、青年期にギャンブルにはまると、ギャンブル依存に陥る成人が増加するそうです。ギャンブルを乱用し、それに依存するのは、若いうちからギャンブルに手を染めた人々であると報告されています。この所見は、青年期のギャンブルが成人になってからも抜けな

いということを示しています。ギャンブルは無害なことではなく、否応なく、依存の状態につながります。世界的に見て、病的賭博に陥る人の割合は、0.8%と1.8%の間だそうです。数百万人が関わっていることになりま

救世軍の立場の土台となるもの

救世軍は次のように信じています。私たちに与えられている資源は最終的に神のものであり、私たちは金銭を生産的に用い、貪欲に陥ることなく、他の人々を犠牲にして儲けることはしないという責任がある、と(テモテ一6:3~10、17~19)。

ギャンブルは、キリスト教の教えである、愛、敬意、自制、他の人々に対する思いやり(ガラテヤ5:22、23参照)などに反します。問題があるギャンブラーになるリスクは低いと思われる人にも、そのリスクが大きい人々を守る責任があるのです(コリント一8:9参照)。

誰であっても、依存症に苦しむ人々を非難したり、裁いたりしてはなりません(ルカ6:37参照)。誰でも弱さをもっています。キリスト教では、ギャンブル依存者が回復し、健全な人となり、自尊心を取り戻すために、私たちが手助けをするようにと教えています。

政府は、神の僕として、社会全体の福祉のために働くものとされています。国家が傷つきやすい人々から収益を得るために、ギャンブルを用いるとしたら、それは国家が仕えるべき市民に対して、誠意をもって行動していることにはなりません。

実際の対応

1. 救世軍は、ギャンブル依存に苦しむ人々と、そういう人たちの影響を受けている人々に心を寄せています。救世軍兵士は、いかなるギャンブルにも手を出しません。慈善事業のための資金をつくる時にも、救世軍人はギャンブルに関わることなく、自ら献金することを勧められます。
2. 救世軍はすべての人に、ギャンブルに関わるリスク

を理解するよう勧め、そのための教育と、防止プログラムを勧めます。

3. 救世軍は、ギャンブルが危険であることを訴え、その餌食になっている人々とその家族の苦しみを知ってもらうために、政府や営利団体や個人に働きかけます。
4. 救世軍は、ギャンブル依存に苦しむ人々を非難することに反対します。救世軍は、ギャンブルをする人々とその家族に、教育、カウンセリング、回復プログラムを提供することによって、彼らを支援します。彼らの心理的、社会的、霊的福利を促すために、救世軍は包括的な支援を行います。

(2012年6月大将によって承認)

第14回「障がいのある人々」(1)

障がいのある人々についての見解表明

すべての人が神にかたどって造られており、等しい価値をもっています。それゆえに、救世軍は相違を尊び、尊厳と敬意をもってすべての人に接するように努めます。

世界中で多くの人々が、障がいのゆえに差別を経験しています。差別は、非難をしたり、否定的な態度をとったりするばかりでなく、深く浸透した、組織的な排除にまで至ります。救世軍はそのことに対して、最低限の国の法的要件を越えて、障がいのある人々が疎外されずに、生き生きと生活できるようにします。

障がいのある人々が排除される世界では、神がどんな方で、どのように見えるか、私たちにはわからないのです。皆を包み込むことは、誰にとっても益となります。私たちの共同体や会衆の中に多様性があることは、私たちを強め、私たちの使命や働きを形づくるのです。救世軍人の働きの目指すところは、具体的に現された福音が、すべての人々に届くようにする教会をつくり上げることです。

見解表明の背景と状況

障がいは歴史的、現代的、文化的、世界的な現実です。およそ十億の人が障がいをもって生きてい

ると言われます。障がいのある人々は今でも、不正な行為、経済的な苦勞、虐待、非難、差別などの形で苦勞を強いられています。障がいのある女性は、幾重にも不利な立場に立たされており、障がいのある多くの子どもたちは、学校に通うこともできず、障がいのある子どもたちの死亡率は、障がいのない子どもたちの4倍にもなると言われています。世界の中には、障がいに関する法律がないところも多

くあります。「障がい」という言葉は包括的な意味で、個人的に障がいがあるということだけでなく、障がいのある人々が経験する社会的な制限も含まれます。

(続く)





戸澤路江少佐 天に召さる

戸澤路江少佐は、2024年6月16日、入居先の有料老人ホームから、召天されました。96歳でした。

戸澤路江少佐は、1951年12月1日、高崎小隊より士官学校『中保者』の学年へ入校され、1952年7月少尉に任ぜられ、麻布小隊副官の任命を受けられました。その後、札幌婦人寮付、清水小隊長、天満小隊長、士官学校付、渋谷小隊長を歴任されました。1965年、5カ月ほど病気療養されましたが、その後、熊本小隊（臨時）、麻布小隊長、京橋小隊長、東海道連隊長、名古屋小隊長（兼）、戦場部長補佐、戦場部長補佐（部長に準ずる）、東京連隊長、関西連隊長、関西四国連隊長を歴任されました。1987年には35年士官永年勤続章を授与されました。1988年5月に現役を引退されましたが、その後も清水小隊長として約9年間奉仕を継続され、1997年3月に完全引退されました。

士官の生涯のほとんどを連隊・小隊士官として過ごされ、神の栄えと人の救いのために尽くされました。救霊者として、多くの人々をキリストの救いに導かれ、晩年まで毎日、全国の小隊・士官・戦友のために祈り続けた祈りの人でした。

6月18日、高崎小隊で、告別式が、高崎小隊士官細貝信義少佐の司式で執りおこなわれました。御遺族の皆様の上に神様の御慰めをお祈りいたします。



西村 恵少佐 天に召さる

西村恵少佐は、2024年7月10日、入院先の病院より、慢性心不全のため召天されました。93歳でした。

西村恵少佐は、1958年9月2日、神田小隊より士官学校『開拓者』の学年に入校。翌年には候補生軍曹となり、1960年6月、中尉に任ぜられ、浄心小隊長の任命を受けられました。1961年には本営財務部付、1962年7月、西村藩大尉と結婚。その後は夫君と共に、岐阜小隊、京都小隊、泉尾小隊、前橋小隊、神戸小隊、名古屋小隊、静岡小隊、清水小隊を転戦されました。1981年以後は、北海道連隊家庭団書記、呉小隊及び（兼）呉保育所、東京連隊家庭団書記、関東東北連隊家庭団書記、（兼）関東東北連隊及び（兼）高崎小隊での働きを任ぜられました。1993年からは清瀬病院広報及びボランティア担当、チャプレン、清瀬病院事務長補佐の奉仕をされました。1994年には35年士官永年勤続章を授与されました。1996年、高知小隊付の任命を受け、2年後現役を引退されましたが、その後も高知小隊での奉仕を継続され、1999年3月、完全引退されました。

恵少佐は静かで優しい性格でありながら、内なる強さを併せもつ方でした。家族への愛と信仰の継承を重視され、子や孫の世代にまで信仰を伝えることに尽力されました。

告別式は、7月15日、杉並小隊にて、杉並小隊士官山谷昌子少佐の司式で執りおこなわれました。御遺族の皆様の上に神様の御慰めをお祈りいたします。

遺贈について

救世軍では、遺贈に関する相談を受け付けています。遺贈とは、個人が亡くなった際に、その財産の一部または全部を特定の団体に遺すことを指します。これは遺言書を通じておこなわれ、社会貢献の一環として重要な役割を果たします。救世軍は、伝道・医療・福祉・災害被災者支援・人身取引被害者支援の活動を通じて多くの人々を支援しており、遺贈によって託された資金は、その活動をさらに充実させるために役立てられます。



遺贈に関する具体的な相談は、救世軍本営の代表電話（03-3237-0881）または電子メール（web@jpn.salvationarmy.org）で受け付けています。興味のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。あなたの意志を未来へと繋げるための第一歩を踏み出してみませんか。

- 救世軍公報
- 転任（カッコ内は継続任命）
- 補（兼）災害対策室長（北海道連隊長、兼札幌小隊士官、兼札幌地区保育園チャプレン、兼レボリューション・ジャパン・ディレクター）
- 石坂臣司少佐
- 二〇二四年八月一日付
- 司令官
- ステイブ・モーリス
- 新施設長
- 愛光園施設長
- 吉田有
- 児童家庭支援センター明日葉センター長
- 小尻由美子
- 二〇二四年八月一日付
- 恵みの家施設長
- 引地正樹
- 二〇二四年十月一日付
- 司令官
- ステイブ・モーリス
- 召天
- 戸澤路江少佐（高崎小隊出身）
- は、二〇二四年六月十六日、召天。
- 西村恵少佐（神田小隊出身）
- 二〇二四年七月十日、召天。
- 司令官
- ステイブ・モーリス
- ※お詫びと訂正
- 二〇二四年初夏号（二八七〇号）10ページ中高校生キャンプ記事に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
- （誤）呉小隊士官友安浩中尉
- （正）福山小隊士官友安浩中尉

召天者合同記念会

10月12日（土）午後2時

於：多磨霊園 救世軍墓所（七区一種五側一番）

士官志願者サンデー 10月6日（日）

士官志願者及び献身者祈祷月間

10月1日～31日

525キャンペーン～共に主の門に入ろう

2025年に5人の候補生が与えられるよう、

引き続き祈りましょう！

感謝祭 9月15日～30日

感謝祭オンラインイベント

9月1日（日）午前9時配信開始

救世軍 YouTube チャンネルにて

*今年は、10分間の動画を作成しました。各拠点での献納式や諸集會でご活用ください

小隊候補生サンデー

9月1日（日）



創立者 ウィリアム・ブライス 大将 リンドン・バッキンガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ステイブ・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区) <https://www.salvationarmy.or.jp>

リンドン・バッキンガム大将及び 万国女性部会長 ブロンウィン・バッキンガム中将 2025年11月来日



2025年11月19日(水)～25日(火)、リンドン・バッキンガム大将及び万国女性部会長ブロンウィン・バッキンガム中将が来日されます。プログラムは検討中です。この計画に神様の豊かな導きと与えられるようお祈りください。



THE SALVATION ARMY INTERNATIONAL 世界の救世軍

●大将夫妻 国連を訪問

リンドン・バッキンガム大将夫妻は、7月21日から25日にかけて、米国ニューヨークの国連本部を訪問しました。今回の訪問は、2007年7月に救世軍万国社会



正義委員会が設立されて以来、現職の救世軍大将が国連の高官と会う初めての機会となりました。

国連グローバル・コミュニケーション担当事務次長のメリッサ・フレミング氏

●五輪での活躍—タピワナシ・マカラウ選手

タピワナシ・マカラウ選手は、ジンバブエの短距離走者として注目を集めています。両親であるリチャード&リスナー・マカラウ少佐夫妻は、ジンバブエのハラレで奉仕しています。タピワナシは2000年にジンバブエで生まれ、幼少期から陸上競技に情熱を注いできました。マゾウェ高校とブラッドリー高校でその才能を磨き、2016年にはジンバブエ国立スポーツアカデミーに参加し、2017年には18歳以下の国内チャンピオンとなりました。



2021年にはバインデラ科学教育大学に進み、2023年4月、アメリカ・テキサスでの陸上大会で200メートルを20.10秒で走り、ジンバブエの全国記録を約20年ぶりに更新しました。

先ごろおこなわれたパリ五輪で、彼は200メートル決勝に進出するという快挙を成し遂げ、20.10秒で6位に入賞しました。ジンバブエはじめ世界の救世軍から、

との会談では、世界の現状と、救世軍が世界の最も貧しく疎外された人々を支援するために、193の国連加盟国をどのようにサポートし、協力し続けられるかが強調されました。世界宗教者平和会議の議長ラビ・ヴィソツキー氏や、教皇庁の国連常任オブザーバーであるカッチャ大司教との会談では、宗教間対話の重要性と、信仰に基づく組織の効果的なパートナーシップの必要性を確認しました。

ブロンウィン中将は国連児童基金(ユニセフ)のジェンダー平等担当ディレクターであるランブル氏と会談し、世界中の若い女性(10歳から19歳)の共通の懸念と課題を共有しました。

国連でのこれらの会談は、救世軍の世界的な貢献の重要性と共に、様々な機関と協力して、世界の福祉と繁栄のために活動することの重要性を再確認する時となりました。



SNSを通じて多くの声援が寄せられました。五輪の後、彼は、家族や救世軍、関わった多くの人への感謝のコメントを発表し、その謙遜な姿勢は、人々に大きなインスピレーションを与えています。

印刷所	救世軍本営	株式会社ヒーランドエス
発行所	救世軍本営	
電話	東京(03)三三七〇八八一	神田神保町二フ十七
〒101-0051	東京都千代田区	
編集人	山谷 真	
印刷兼 救世軍		
印刷人 代表者	ステイブ・モーリス	
▼発行日	発行日及び定価	
▼定価	福喜版・毎月一日発行	四〇〇円
福喜版・一部	四〇〇円	
福喜版・一部	一〇〇円	
クリスマス特集号	十二月一日発行	一〇〇円
振替	〇〇一八〇一五四四〇〇	

(取扱支部)